

大田区文化振興プランの成果 概要

1 計画期間 令和元年度から7年度まで（コロナ禍に伴い、当初の令和5年度から2年延伸）

2 計画期間の振り返り

平成27年3月に策定した第2次計画を引き継ぎつつ文化を通じたまちづくりを一層進めていくため、令和元年度を始期とする第3次計画を策定した。文化振興協会主催の公演事業数がこの7年間で2倍に増えるなど、区民が文化芸術に触れる機会を拡充してきた。新型コロナウイルス感染症の拡大により、事業の中止や延期、利用者数の制限など当初の計画どおりに進まない事業もあったが、文化施設以外で文化芸術に触れられるようオンライン配信に取り組むなど新たな文化芸術の在り方を模索した。このような未曾有の危機を経験した結果、文化芸術が安らぎや希望を与え、心を落ち着かせたり回復させたり豊かに保ったりするものとして私たちの暮らしに不可欠であることを再認識することができた。

3 めざすまちの将来像

文化を愛し育み創造する、にぎわいのあるまち大田区 ～地域力を活かした多様な文化とのふれあい～

- 誰もが文化に触れ、豊かな暮らしを送る
- 誰もが地域に魅力を感じ、楽しむ
- 誰もが地域で自分らしく生きがいを持って暮らす

4 基本目標の評価

基本目標1 区民・団体の自主的な文化活動を支援する

<指標> 区民・団体が行う自主的な文化活動により満足が得られている

- 【課題1】文化芸術情報が少ない、文化に関心がない区民への取組 【課題2】文化活動団体の支援体制整備、支援策周知
【課題3】子どもが文化芸術に触れる機会の拡充

計画期間中の主な取組結果

相談機能・コーディネート機能の充実[重点施策]

文化の森運営協議会では、活動したいと考えている区民に向け企画相談会を開催し、区民の活動を支援した。

令和4年度に区内の生涯学習に関する情報を一元的にわかりやすく発信する生涯学習ウェブサイト「おおたまなびの森」を開設した。

社会教育関係団体が日頃の活動を生かした区民向け講座の企画・運営ができるよう支援した。

子ども達への文化機会の提供・支援の強化[重点施策]

子どもが文化芸術に触れる機会を拡充するため、区立小学校にアーティストを派遣する「大田区学校出張講座」を開催し、狂言や落語、ヒップホップダンスなどを鑑賞する機会を創出した。

熊谷恒子記念館が工事による長期休館のため、小学生以上を対象に文化の森でアウトリーチ型ワークショップ「熊谷恒子かな書ワークショップ『墨筆で心和らぐ かなの美』」を開催した。

令和7年度に新たな取組として、区立小学校で全学年を対象に区所蔵美術品を鑑賞する機会を創出した。また4年生を対象に区ゆかりのアーティストによる鑑賞授業も行った。

区民・団体の自主的な文化活動を支援する[基本目標]

区民の発表の機会を確保するため、特別出張所や地域庁舎で区民の作品を展示した。

「アプリコお昼のピアノコンサート」や「下丸子 JAZZ 倶楽部」、「馬込文士村空想演劇祭」などを開催し、区民が文化施設で鑑賞する機会を充実した。

さまざまな理由で文化施設に行くことが難しい区民に向け、福祉施設にアーティストを派遣する「福祉施設訪問事業」を開催し、音楽を鑑賞する機会を創出した。

参考実績・アンケート調査結果

・ホール機能を持つ3文化施設の利用者数

大田区民ホール・アプリコ 大ホール ※工事による休館期間：令和4年1月から令和5年2月まで

(利用者数)令和元年度：231,057人、令和2年度：39,712人、令和3年度：76,974人、令和4年度：12,714人、令和5年度：193,127人、令和6年度：212,995人

大田区民プラザ 大ホール ※工事による休館期間：令和5年3月から令和6年6月まで

(利用者数)令和元年度：83,185人、令和2年度：15,452人、令和3年度：34,211人、令和4年度：70,121人、令和5年度：0人、令和6年度：62,552人

大田文化の森 ホール ※工事による休館期間：令和6年5月から令和7年6月まで

(利用者数)令和元年度：35,792人、令和2年度：9,378人、令和3年度：16,845人、令和4年度：32,254人、令和5年度：38,600人、令和6年度：2,995人

・(公財)大田区文化振興協会 主催事業

主催事業数：令和元年度：38件、令和2年度：57件、令和3年度：32件、令和4年度：31件、

令和5年度：44件、令和6年度：76件

来場者数：令和元年度：27,089人、令和2年度：8,958人、令和3年度：14,267人、令和4年度：12,694人、

令和5年度：30,924人、令和6年度：39,784人

・文化芸術に関する活動を行っている区民の割合(大田区文化に関する意識調査より)

「活動したことはない」と回答した区民の割合：平成29年度 58.1%、令和6年度 64.1%

大田区文化振興プランの成果 概要

<p>・文化芸術団体にとって他団体とつながる機会の充実度(大田区文化に関する意識調査より) 「充実している」と回答した団体の割合:平成 29 年度 22.1%、令和6年度 15.2%</p> <p>・区内の歴史や文化、芸術に親しめる環境への「満足層」(大田区政に関する世論調査) 区内の歴史や文化、芸術に親しめる環境に「満足している」、「やや満足している」と回答した区民の割合:令和3年度 28.8%、令和6年度 30.2%</p>
<p>総括評価</p> <p>文化施設での鑑賞だけでなく学校や福祉施設へのアウトリーチ事業もあわせて実施することで、多くの区民に文化芸術を鑑賞する機会を提供できた。特に学校へのアウトリーチでは、子どもたちの声として、文化芸術への興味の高まりを創出することにつながった。</p> <p>区民の認知度が比較的高い「文化の森」で熊谷恒子記念館の事業を開催したことで、区民の認知度が低い「熊谷恒子記念館」を周知することができた。また、熊谷恒子記念館に行きたいとの声を聞くことができた。</p>
<p>次期プランに向けて</p> <p>文化芸術活動の担い手の育成やコーディネート機能の強化→施策1「今後検討する事業」、施策3「今後充実させる事業」で取り組む 文化芸術情報の発信→施策3-2「豊富なメディアによる情報発信とコーディネート機能の強化」で継続して取り組む</p>
<p>基本目標2 区民とともに文化をつくり、発信する</p> <p><指標> 創造性にあふれた文化が生まれ、文化の再発見・発信がされている</p> <p>【課題1】 幅広い分野の主体と連携し、新たな地域文化の発信 【課題2】 地域文化の保存・継承・発信が十分でない 【課題3】 オリパラを契機に国内外に向け区の文化を PR(文化のレガシー創出)</p>
<p>計画期間中の主な取組結果</p> <p>地域の多様な文化の創造・発掘・発信[重点施策]</p> <p>令和元年度に文化振興協会のイベント情報や民間のギャラリー、区民の芸術活動を紹介する文化芸術情報紙「ART bee HIVE」を創刊した。令和3年度からは区民記者を公募し、区民とともに地域の文化資源を発信する取組を進めている。</p> <p>福祉分野と文化芸術が連携し、障がい者福祉施設利用者が羽田空港の手荷物カートデザインしたり、勝海舟記念館のミュージアムグッズ「勝茶」の製造に携わったりする取り組みを行い、障がい者の社会参画に貢献した。</p> <p>地域の歴史や文化資源の再発見と保存・活用[重点施策]</p> <p>区立博物館・記念館において所蔵資料を展示したほか、講演会やまちあるきなど区民が参加できる事業も実施した。</p> <p>文化財の普及啓発を目的に刊行物を発行した。また講演会や写真パネル展を開催した。</p> <p>伝統工芸士の社会的評価の向上を図るとともに伝統工芸に対する興味・関心を喚起するため、区内外で活躍している伝統工芸士を認定する制度を設けており、令和6年度は1名を認定し累計 14 名を認定した。また、区民が身近に伝統工芸に触れる機会を創出するため、駅ビルの一角を利用し伝統工芸士の技の実演やワークショップを実施した。</p> <p>地域の文化資源を区内外に発信するため、大田区を拠点に活躍する美術家の作品を展示する「大田区在住作家美術展」を開催した。</p> <p>オリンピック・パラリンピックを契機とする文化的レガシーの創出[重点施策]</p> <p>オリンピック・パラリンピックを文化の祭典ととらえ、区内外から大田区を訪れる来訪者に向け区の文化を PR した。令和3年度には、勝海舟記念館の開館2周年を記念した講演会をオンライン配信し、36 日間の限定公開で延べ 99,662 回再生され、勝海舟記念館を広く周知することができた。</p> <p>区民とともに文化をつくり、発信する[基本目標]</p> <p>令和8年2月に区が所蔵する絵画等の収蔵・展示施設として「馬込アートギャラリー」が開館した。地域ゆかりの作家の絵画を紹介するほか、区内で活躍するアーティストと地域住民が交流・連携するワークショップなどを開催し、協働制作や対話を通じた地域交流の場を創出していく。</p>
<p>参考実績・アンケート調査結果</p> <p>・文化施設の利用・認知度(大田区文化に関する意識調査より) 郷土博物館の認知度:平成 29 年度 41.1%、令和6年度 54.0% 大田区民ホール・アプリコの認知度:平成 29 年度 81.9%、令和6年度 85.1%</p> <p>・地域文化の保存・継承、PR の充実度(大田区文化に関する意識調査より) 区内の有形無形の文化財や歴史的な建造物の保存・公開・継承事業の充実度 「充実している」と回答した区民の割合:平成 29 年度 26.9%、令和6年度 29.5% 「充実していない」と回答した区民の割合:平成 29 年度 13.6%、令和6年度 26.4%</p> <p>・大田区在住作家美術展来場者数 令和元年度 4,775 人、令和2年度 3,455 人、令和3年度中止、令和4年度 3,239 人、 令和5年度 4,625 人、令和6年度 2,832 人</p> <p>・勝海舟記念館来館者数の推移 令和3年度:区内 46.0%、区外 54.0% 令和7年度:区内 35.4%、区外 64.7%</p>
<p>総括評価</p> <p>文化芸術情報紙「ART bee HIVE」を創刊したことで、文化芸術情報だけでなく区内で活躍するアーティストなどの人材情報も発信することができ、アーティストの活動と各団体とのつなぎへの円滑化に寄与することができた。</p> <p>博物館・記念館で講演会やまちあるきを開催することで、より深く学びたいという意識を持った来館者の学びにつながっている。</p>
<p>次期プランに向けて</p>

大田区文化振興プランの成果 概要

<p>地域の文化資源の保存・活用→施策2「地域の文化資源の保存・活用・継承」で継続して取り組む</p> <p>地域の多様な文化の発信→施策3「文化芸術を通じた地域づくりに貢献」で継続して取り組む</p> <p>今まで連携したことのない分野・事業との連携→施策4「多様な分野の社会課題解決に向けて文化資源を活用」で取り組む</p>
<p>基本目標3 文化によるまちづくりを推進する</p> <p><指標>文化に関する取組により、まちがにぎわっている</p> <p>【課題1】文化を通じてつながるコミュニティの形成 【課題2】文化施設間の回遊を促す魅力づくり</p>
<p>計画期間中の主な取組結果</p> <p>文化による多層的なコミュニティの形成[重点施策]</p> <p>令和6年度に郷土博物館を拠点に活動する「大田区立郷土博物館友の会」、「大森麦わら細工の会」、「馬込文士村ガイドの会」が周年を迎えたことを機に、これまでの歩みと活動・学習の成果を発表する企画展を開催した。</p> <p>文化施設の回遊性の創出[重点施策]</p> <p>区立文化施設の回遊性を高めまちのにぎわいを生み出すことを目的に、令和3年度に郷土博物館・大森海苔のふるさと館・勝海舟記念館・龍子記念館が連携し、4施設を回るスタンプラリー「おおた夏のミュージアムめぐり」を実施した。</p> <p>文化によるまちづくりを推進する[基本目標]</p> <p>区民の文化芸術活動の発表・鑑賞・交流の場として「大田区文化祭」を開催した。</p> <p>洗足池公園で和の演奏に親しむことができる「洗足池 春宵の響」を開催した。</p> <p>区民が交流の輪を広げる場として「OTA ふれあいフェスタ」を開催した。</p> <p>区民プラザ開館以来開催している「下丸子らくご倶楽部」を開催した。</p>
<p>参考実績・アンケート調査結果</p> <p>・大田区文化祭 出場者数及び来場者数</p> <p>出場者数:令和元年度 1,233 人、令和2年度 814 人、令和3年度中止、令和4年度 1,253 人、令和5年度 2,638 人、令和6年度 2,758 人</p> <p>来場者数:令和元年度 3,122 人、令和2年度 1,746 人、令和3年度中止、令和4年度 3,688 人、令和5年度 6,517 人、令和6年度 6,789 人</p> <p>・下丸子らくご倶楽部来場者アンケート</p> <p>令和5年度:はじめて 26.5%、リピーター73.5%</p> <p>令和6年度:はじめて 16.1%、リピーター83.9%</p>
<p>総括評価</p> <p>「洗足池 春宵の響」や「OTA ふれあいフェスタ」の開催は、多種多様な文化芸術に触れ合える機会の創出につながり、参加者や来場者のコミュニティ形成につながっている。</p> <p>郷土博物館を拠点に活動する団体の企画展を開催した結果、当該団体に講演会の講師依頼が来るなど新たなつながりを創出することができた。</p>
<p>次期プランに向けて</p> <p>分野の垣根を越えた交流の場づくり、コーディネート機能の強化→施策3「文化芸術を通じた地域づくりに貢献」で継続して取り組む</p>